

第47回黒潮町 泊まり合い人権教育研修会レポート

11月16日(土)・17日(日)、宿毛市で泊まり合い人権教育研修会「1人ひとりの大切な思い、みんなで語ってつながろう」が開催され、町から38名が参加しました。

今年で47回目となる研修会は、泊まり合いを通じて人権について学び、差別の無いまちづくりをめざして、町が毎年開催しています。今回は「宿毛リゾート椰子の湯」で体験発表や班別協議、フィールドワークを行い学習を深めました。

1日目の体験発表については町在住の石井一代さんから「問われているのは自分」と題して、子ども・部落差別・障がい者・高齢者など幅広い人権課題についての体験談を話していただきました。その後、班別で意見や感想を話し合いました。

2日目は部落差別(結婚差別)により自ら命を絶たれた池上誠さんの石碑のある宿毛市内でフィールドワークを行い、その後、宿毛市在住の濱田昌臣さんと大串智哉さんから「私にとっての部落差別問題」と題して、講演をしていただきました。

参加者の皆さんからのご意見・ご感想

- ◆石井さんの体験発表を聞き、「自分自身に問うこと」の意味を気づかされました。また濱田さん・大串さんの講演から「無知」だという恐ろしさ、知ることのでられるものがたくさんあるということ、差別する側、される側にいつでもなるのだということを知りました。日常の中で自分に問うことで、立場を振り返り、今後自分がどうすればよいか考えていかなければならないと思いました。
- ◆世の中に差別や偏見がなければ平和な世界になると思いました。学校で正しい教育を行い、家庭でも正しい話し合いができるような社会にしていかなければならないと思います。今後も泊まり合い人権研修は継続して欲しいと思います。
- ◆やはり当事者の話を聞かせてもらうことは今後も大いにやってほしいです。その人たちでないとその人の想いは知ることできないしそれが学びであると思います。また、各保育所、各小中学校、ならびにPTAの保護者の参加の位置づけもお願いしたいです。
- ◆「自分から見ようとしないとなんとも見えない」、「自分が矛盾に気づこうとしないとなんとも見えてこない」という講師の言葉がとてもしびました。
- ◆今、こうして学べる環境があることに感謝しています。しかし、環境が変わったときが自分が試される時なのかなと思いました。優しい人間で、差別を許さない人間でありたいと願っています。そのためにこれからも学び続け更新していくこと、まずは自分の行動を問うことを大事にしていきたいと思っています。
- ◆結婚差別により20歳という若さで死を選んでしまった池上誠さんの現実、我が子にはそういう思いをさせたくないと改めて思い、勉強していきたいと思いました。
- ◆「正しい答えや意見ではなく、正直な意見を言う」ということがこの研修の気づきです。
- ◆石井さんは仕事や家族のなかで、自分が学んだ人権問題をたくさん活かされていることに感動しました。また、学習したことをいかに活かしていくのか自分に問いかけました。

